

## 平成 30 年度第 1 回学校関係者評価報告書

学校法人諏訪学園山形医療技術専門学校は、平成 29 年度第 2 回自己点検・評価表に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、その結果を以下のとおり公表いたします。

### 1 学校関係者評価委員会委員

委員長	梶原賢	校長
委員	杉原敏道	教育部長
委員	磯部佳宏	総務部長
委員	古内慶弘	教務課長
委員	長沼誠	理学療法学科長
委員	鈴木竜平	作業療法学科長
外部委員	菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授
外部委員	飯塚力	サンワ機器 代表取締役
外部委員	早坂奈緒子	篠田総合病院 理学療法士
外部委員	沼沢和宏	至誠堂総合病院 作業療法士

### 2 自己点検・評価表の大項目

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 教育理念・目的・人材育成像 | 6 教育環境       |
| 2 学校運営          | 7 学生の受入れ募集   |
| 3 教育活動          | 8 財務         |
| 4 学修成果          | 9 法令等の遵守     |
| 5 学生支援          | 10 社会貢献・地域貢献 |

### 3 平成 29 年度第2回自己点検評価表

自己点検評価については、4段階で評価しています。

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	<b>①現状と課題</b> 教育理念・目標・育成人材像などの学内表示、ホームページ、シラバスへの掲載は継続的に行っている。また、オープンキャンパスや高校訪問、入学時オリエンテーションでも積極的に伝えている。 学校関係者評価委員会や教育課程編成委員

・学校における職業教育の特色は活かされているか	4	<p>会、実習指導者会議などを通じての業界のニーズ把握にも積極的に努めている。</p> <p><b>②今後の対策</b></p> <p>教育理念・目標・育成人材像などの周知は概ね達成されている。学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、実習指導者会議などを通じて業界のニーズ把握にも継続的かつ積極的に努める。</p>
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を抱えているか	4	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	

## (2) 学校運営

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	<p><b>①現状と課題</b></p> <p>学校運営については、運営委員会、入試委員会、教務委員会を核とした委員会で協議の上、意思決定をおこなっている。また、重要な案件については、学園の理事会に諮り承認を受けている。</p> <p>教務、財務等の組織は整備されており、意思決定システムについても整備されている。</p> <p>事業計画として専門職大学移行を検討していることから設置基準等の情報収集を行った。</p> <p>コンプライアンス遵守の一環として山形県警に依頼し、交通安全に関する講習会や薬物に関する講習会などを実施した。</p> <p><b>②今後の対策</b></p> <p>専門職大学移行を検討するために設立準備室を設置することとしている。今後は、引き続き情報収集に努めると共に申請に向けた準備を行う。</p> <p>コンプライアンス遵守の意識を高める方策として今後も継続して講習会などを実施する。</p>
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	3	
・人事・給与に関する規程等は整備されているか	4	
・教務、財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されているか	4	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	3	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	

・情報化システム化等による業務の効率化が図られているか。	3	
------------------------------	---	--

### (3)教育活動

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	<b>①現状と課題</b> 授業における教員間の相互評価の取り組みが行われているが、全ての科目において実施できるよう継続的な取り組みが必要である。 教育課程編成委員会ならびに学校関係者評価委員会を通して、外部評価者から寄せられた意見を学内教育に反映する取り組みが行われている。今後も、非常勤講師も含めた連携を図り教育活動に反映させる取り組みを継続する。 教員の能力開発のため長期講習会への参加も積極的に行い、伝達講習なども実施しているがすべての講習等に実施できていない。 社会人教育の一環として、社会人としてのマナーや礼儀作法、薬物や飲酒等の危険性について外部講師を招き特別講義を行った。 理学療法学科では、臨床実習施設の確保については概ね良好である。実習開始前に行われる実習指導者会議においても、アンケートで様々な意見を頂戴することができた。また、実習期間中に教員が実習施設に訪問し、実習の進捗状況の確認と派遣学生を通じた学内教育についての意見交換を行っている。これらの意見を学内教育に反映させていくことで、実習が指導者、学生、教員の3者が一体となった取り組みになるものとする。さらに実習指導者の参考資料として前年度派遣学生の全実習の総括資料を実習指導施設に提示した。今後も、教員と指導者が密に連絡を取り合える関係を継続し、学生にとって有意義な実習となるべく努めていく。 作業療法学科では、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育法の工夫・開発などの実施において不十分な点が見られる。科目同士の関連性など作業療法の一連の流れに沿った教授を
・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技実習等)が体系的に位置付けられているか。	4	
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3	

<p>・成績評価、単位認定制度卒業判定の基準は明確にされているか</p>	<p>4</p>	<p>さらに明確化していく努力が必要である。さ 授業における教員間の授業見学、授業評価の 取り組みに不十分な点が見られる。特に他学科、 他分野への積極的な係わりが必要である。</p> <p><b>②今後の対策</b></p> <p>学内教育の充実を図るため、授業における教員 間の相互評価を継続的に実施し、教授法の向上に 努めるとともに、非常勤講師との連携をさらに図る 必要がある。</p>
<p>・資格取得等に関する指導体制、 カリキュラムの中での体系的位置 付けはあるか。</p>	<p>4</p>	<p>教員が参加した学会・セミナー等の内容を伝達 する講習会の機会を増やし、情報の共有化を図り 教員の専門的知識や教育の質の向上を図る必要 がある。</p>
<p>・人材育成目標の達成に向け授業 を行うことができる要件を満たした 教員を確保しているか</p>	<p>4</p>	<p>外部講師を招いてのマナー講習、違法薬物や 飲酒運転等の交通安全講習を継続的に実施して いく必要がある。</p> <p>理学療法学科では、理学療法の専門的知識の みではなく、一般的な教育学についての研鑽を図 り、教員個々の向上に努める必要がある。</p>
<p>関連分野における業界等との連携 において優れた教員(本務兼務を 含む)を確保するマネジメントがお こなわれているか</p>	<p>3</p>	<p>実習に関しては今後も指導者と密に連携を取り ながら、学生にとって教育効果の高い実習になる べく継続的に努める。実習指導者会議の充実、実 習の総括資料の提示、実習指導者へのアンケート などの取り組みは今後も継続し、実習施設と教員が 意見交換できる環境を構築していくとともに、挙げら れた意見や問題を共有しながら吟味し、より良い実 習について追及する。</p> <p>地域の包括的支援サービスの提供体制推進に 対する教員の研修等を含め研鑽を行い、学内教育 に反映させる必要がある。</p>
<p>・関連分野における先端的な知識 技能等を習得するための研修や 教員の指導力向上のための取組 が行われているか。</p>	<p>4</p>	<p>作業療法学科では、科目同士の関連性、作業療 法の一連の流れに沿った教授の拡充を図るため、 各科目、学年ごとの到達目標を明確にし、教員間 でのさらなる意思疎通を図る必要がある。さらに教 員個々人の教育力向上のため大学院で学び、知 識・技能を習得する。</p>
<p>・職員の能力開発のための研修等 が行われているか</p>	<p>3</p>	<p>学科、分野を問わず積極的に授業参観を行い、 教授方法などを取り入れていく必要がある。</p>

#### (4) 学修成果

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・就職率の向上が図られているか	4	<b>①現状と課題</b> 理学療法学科では、国家試験において、全員合格することができた。学科としての取り組みとしては一定の成果があったものとする。昨年同様多くの求人をいただき、県内外の中核となる施設への内定が決まった。しかしながら、卒業者数は入学定員数の85%程度であり、留年・退学者が多かったことが反省点として挙げられる。
・資格取得率の向上が図られているか	4	作業療法学科では、国家試験100%合格を達成すべく国家試験対策に取り組んだが、今年度の国家試験の結果は94.1%であった。国家試験対策は1年次より実施しているが、基礎科目の習熟が低いため、各学年の到達目標を明確にし、連続的な知識の確立が必要である。また、卒業者数も入学定員数の85%程度と、留年が多かったことが反省点として挙げられる。 留年・退学者については、両者とも昨年度より減少傾向があったものの、実習で不合格が3、4年生に多くみられ、その原因は情意面の未熟さを露呈した者が大半であった。情意面の問題として、実習に対する取り組みが消極的であること、課題の未提出や修正不足、患者や指導者とのコミュニケーション不足であった。一方で、1、2年生の退学者は学習意欲の低下が主であった。留年率低減のための対策として、成績不振の学生に対しての教員による個別指導ならびに実習対策、悩みを抱えている学生に対しての二者面談、三者面談を実施した。今年度よりスクールカウンセリングを導入し、情意面における対策を行った。
・退学率の低減が図られているか	3	卒後のキャリア形成の一環として、学会発表ならびに論文作成の支援を継続的に行った。 <b>②今後の対策</b> 各学年において計画的に国家試験対策を行い、各学年の能力特性と各学生の苦手分野を把握し、個別的な対策を行うための指標とする。また、普段の講義から基礎学力の向上を図るような指導体制の強化を図るため、科目担当と担任が

<p>・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>連携しながら講義を行う。4年次においては、各教員が数名の学生を担当しながら個別的な強化を行い、徹底的な苦手分野の克服を行う。</p> <p>留年・退学率の軽減を図るための対策として、3、4年生に対しては実習で必要となる知識と技術の習得と、情意面に対するフォローを重点的に行う。実習を意識した講義を行い、より実践的な知識と技術の強化を図る。また、学生が受動的な学習を排除し、能動的に課題を持って学習に取り組めるような教育を図る。情意面への対策としてのスクールカウンセリングを継続し、学生の様々な問題の解決を援助し、総合的な教育活動を目指す。また、講義で学生が発言できる機会を増やし、コミュニケーションの苦手な学生も積極的に発言できる環境を提供する。さらに普段の学内において規則やマナーの遵守を徹底する。実習期間中は、指導者任せにならないよう、実習の進捗が芳しくない学生や悩みを抱えている学生がいれば実習施設との連携を図りながら積極的にフォローを行う。さらに、実習前に行われる実習指導者会議を、指導者と学生の実習への導入がスムーズに行えるように企画する。また、1、2年生に対する対策として、成績不振の学生への個別的な指導と学生や保護者との面談を行い、学習意欲の低下を招く原因について早期から対策していく。</p> <p>卒業生に対する学会発表や論文作成の支援も継続して行うとともに、卒業後のキャリアについて把握する。</p>
<p>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	<p>3</p>	<p>連携しながら講義を行う。4年次においては、各教員が数名の学生を担当しながら個別的な強化を行い、徹底的な苦手分野の克服を行う。</p> <p>留年・退学率の軽減を図るための対策として、3、4年生に対しては実習で必要となる知識と技術の習得と、情意面に対するフォローを重点的に行う。実習を意識した講義を行い、より実践的な知識と技術の強化を図る。また、学生が受動的な学習を排除し、能動的に課題を持って学習に取り組めるような教育を図る。情意面への対策としてのスクールカウンセリングを継続し、学生の様々な問題の解決を援助し、総合的な教育活動を目指す。また、講義で学生が発言できる機会を増やし、コミュニケーションの苦手な学生も積極的に発言できる環境を提供する。さらに普段の学内において規則やマナーの遵守を徹底する。実習期間中は、指導者任せにならないよう、実習の進捗が芳しくない学生や悩みを抱えている学生がいれば実習施設との連携を図りながら積極的にフォローを行う。さらに、実習前に行われる実習指導者会議を、指導者と学生の実習への導入がスムーズに行えるように企画する。また、1、2年生に対する対策として、成績不振の学生への個別的な指導と学生や保護者との面談を行い、学習意欲の低下を招く原因について早期から対策していく。</p> <p>卒業生に対する学会発表や論文作成の支援も継続して行うとともに、卒業後のキャリアについて把握する。</p>

(5) 学生支援

<p>評価項目</p>	<p>自己点検 評 定</p>	<p>自己点検評価での課題、今後の対策等</p>
<p>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p>	<p>4</p>	<p><b>①現状と課題</b></p> <p>学生相談に関する体制については、日常的にクラス担任が学生からの相談にあっているが、今年度より教育相談体制の充実を図るため、スクールカウンセラーを専任し、週1回相談室を開設して保護者と連携した対応を行っている。学生の人格を尊重した体制の確立を図る必要がある。</p> <p>学生の健康管理は、学校医に委託し年1回健康診断を継続的に実施している。学生からの健康</p>
<p>・学生相談に関する体制は整備されているか</p>	<p>4</p>	

・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	<p>上の相談や発病・事故等については、教職員の連携体制を整備し適切な対応を行えるようにしている。事務室窓口に薬を常備し、必要に応じて保健室を使用するなどの体制も整えている。</p> <p>また、AED を設置しており、教職員への使用方法の研修も実施している。</p> <p>保護者との連携については、入学時の保護者説明会や 10 月に開催される授業参観を通し、本校の教育方針等について理解を得ている。さらに、保護者との連携強化を図るために、ホームページ等を活用し、情報提供を行っている。</p> <p><b>②今後の対策</b></p> <p>保護者との適切な連携を築くために、日常的な情報交換や授業参観を行い、ホームページ等で保護者に向けた情報提供等を継続していく。</p> <p>学生の相談(進路・学校生活等)に対する支援体制は整備されているが、さらに支援体制を強化するように努めていく。</p>
・学生の健康管理を担う体制は整備されているか	3	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	
・保護者と適切に連携しているか	3	
・卒業生への支援体制は整備されているか	4	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	

## (6)教育環境

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p><b>①現状と課題</b></p> <p>施設設備については、必要に応じた更新、修理等を行なっている。今年度は、情報処理室のパソコン入替や医療機器の更新等を行なった。また、事業計画に則り新たな学生駐車場の造成工事を行い、10月に完成している。</p> <p>理学療法学科、作業療法学科共に必要な臨床実習施設を確保している。</p> <p>防災については、10月に防災訓練を実施した。</p>
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備されているか	4	<p><b>②今後の対策</b></p> <p>施設設備の更新や備品等の更新については、計画に基づき実施するとともに故障等があった場合は、速やかに対応する。</p>

<p>・防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>4</p>	<p>現在、臨床実習施設は充分確保できているが、今後も学生に不利益が生じることがないように新規の受入れ施設の確保に努めるとともに現在受入をお願いしている施設との良好な関係を維持する必要がある。</p>
---------------------------	----------	--

(7) 学生受入募集

<p>評価項目</p>	<p>自己点検 評 定</p>	<p>自己点検評価での課題、今後の対策等</p>
<p>・学生募集活動は適正に行われているか</p>	<p>4</p>	<p><b>①現状と課題</b>            本校の教育理念や教育目標・教育内容について理解を深めてもらうために、学校案内やホームページの更新を行い、最新の情報発信を行っている。また、高校訪問、進路指導課の先生方への学校説明会、オープンキャンパス、進学ガイダンス等を実施し、教育活動や国家試験・就職状況等を中心に情報提供を行っている。特にオープンキャンパス等では、本校が求める学生像を十分理解した上で志願してもらうために、入試概要や教育方針、学生生活について適切な情報提供を行っている。また、アンケートを実施して次回のオープンキャンパスに反映するように努めている。</p>
<p>・学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか</p>	<p>4</p>	<p>今年度はオープンキャンパスを 3 回実施し、生徒 215 名・保護者 103 名、合計 318 名の参加を得ることができた。新入生のアンケートでは、オープンキャンパスへの参加で受験を決めた学生が約半数おり、オープンキャンパスの効果が表れている。また学生募集活動では、県内 42 の高校に加え県外 51(宮城県・福島県・秋田県)の高校への訪問を行っている。</p>
<p>・学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>4</p>	<p><b>②今後の対策</b>            現在行っている広報活動、学生募集活動を継続し、本校の魅力や特色をPRする必要がある。            オープンキャンパスや進学ガイダンス等を通して、生徒や保護者に対し正確で適切な情報を発信して学生募集に努める必要がある。            学生募集活動として、高校単位での本校見学会や各高校への訪問授業等の機会を増やしていくと同時に、昨年同様に県外(宮城県・福島県・秋田県)への高校訪問を実施する。</p>



## (8)財務

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	<b>①現状と課題</b> 学校の財務基盤は、収入の安定と数年間に渡り実施した経費節減の効果もあり安定している。 学校会計基準に則り処理を行っている。 会計監査は年 3 回実施され学園監事による監査も年 1 回行われている。その他、税理士事務所による月次監査を受け適正な会計処理を行っている。 財務情報の公開については、本校のホームページに学校法人諏訪学園の財務状況を公開している。 <b>②今後の対策</b> 今後も引き続き効率の良い予算の執行を行う。 大規模な設備投資を控えることから適切な収支計画を立て実行する。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	

## (9)法令遵守

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	<b>①現状と課題</b> 養成校として遵守すべき法令・ガイドライン等に基づき運営、教育をおこなっている。 理学療法士作業療法士養成校指定規則が平成32年度に改正されることからカリキュラムや教員要件、臨床実習指導者要件等について対応する必要がある。 個人情報の保護については、セキュリティの更新等を定期的に行っている。また、学外にデータを持ち出さないよう徹底している。 自己点検の結果については、学校関係者評価委員会の報告書と共に本校のホームページで公開している。 <b>②今後の対策</b> 定期的に関係法令を見直し、確認した上で運営、教育を行なう。 指定規則の改正を踏まえ新しいカリキュラムの作成等を行なう。 自己点検・評価については、本校の現状を踏ま
・個人情報保護に関し、その保護のための対策がとられているか	3	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	
・自己評価結果を公開しているか	4	

		え、点検・評価をおこない学校関係者の意見とともに運営、教育に活かす。
--	--	------------------------------------

**(10) 社会貢献・地域貢献**

評価項目	自己点検 評 定	自己点検評価での課題、今後の対策等
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p>	4	<p><b>①現状と課題</b></p> <p>社会貢献・地域貢献活動については、昨年度に引き続き積極的に行っている。周辺地域の地域包括支援センターで企画した「元気もりもり応援隊」に講師登録し、昨年同様地域に対する公開講座を行った。また、今年度も山形職業能力開発促進センターの依頼により離職者訓練の講師を行った。さらに、専修学校、各種学校協会が計画している中学校への職業体験出前講座を実施した。</p> <p>理学療法学科では、山形市社会福祉協議会の依頼により、訪問ヘルパーならびに介護サービス責任者に対するリハビリテーションや介護に関する講義、及び山形県からの委託を受け高校生のメディカルチェックに関する事業を実施した。</p>
<p>・学生のボランティア活動を奨励支援しているか</p>	4	<p>学生のボランティア活動についても積極的に奨励しており、介護施設等からの依頼件数の増加がみられる。その他、中学校や高校からの施設見学や職業体験等も積極的に受け入れており、進路を決めるうえでの情報提供に努めている。</p> <p>作業療法学科では、地域に対して認知症出前講座等を受託し積極的に実施している。また、地域ケア会議にも積極的に参加している。さらに、山形市健康福祉医療事業団主催の高齢者の健康および機能維持教室に参加し、高齢者の健康増進と機能維持を図っている。</p>
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</p>	4	<p>学生のボランティア活動についても積極的に奨励しており、依頼件数の増加がみられる。その他、中学校や高校からの施設見学や職業体験等も積極的に受け入れており、進路を決めるうえでの情報提供に努めている。</p> <p><b>②今後の対策</b></p> <p>これまで実施した公開講座や学生のボランティア活動等について、今後も継続的に実施し社会貢献・地域貢献を行っていく。</p>

## 4 学校関係者評価委員会の開催状況

日時 平成 30 年 5 月 30 日(水) 15:00～16:30

場所 本校会議室

委員会の経過 本校の規程により梶原校長が議長となり、委員会を実施した。平成 29 年度後期の自己点検評価表及び関連資料について各担当者より報告し、外部委員より意見、要望等を受けた。

## 5 学校関係者評価委員からの意見、要望等

### 教育活動・学修成果

国家試験の結果を含めた学修成果について伺いたい。

今年度の国家試験の合格率は、理学療法学科 100%、作業療法学科 94.1%であった。いずれも全国平均を大きく上回る結果であり特に理学療法学科は 6 年連続 100%であった。今年度は、両学科とも 100%となるよう今年度取り組んでいる。

具体的に取り組んでいることについて伺いたい。

作業療法学科については、国家試験対策にかなり力を入れて時間もかけてやってきたが、100%を達成できなかったことから様々な角度から見直しを行なっている。基礎科目の学習理解を深めることや、授業の実施方法などの改善を図っている。また、将来的なカリキュラムの改正を含めて検討している。

上級学年になり専門科目に移ると基礎分野の知識が抜けることも考えられる。解剖学や生理学、運動学に関する知識と専門分野を結びつけるような指導方法や復習する機会を設けるなどの工夫をしてもらいたい。

基礎科目については、理学療法学科、作業療法学科で共通の分野であることから学科ごとに取り組むだけでなく合同での補習や勉強会などを企画してみてもどうか。

今後、教務委員会で検討したいと思う。

自己点検表において、「情意面」という文言がたびたび使われているがどのような意味で使用しているのか教えていただきたい。一般的な「情意」とは、心中のおもい、気持ちという意味だと考えられるがそれ以外のことも含めて用いているのか。

理学療法士・作業療法士は、内面の気持ちや思い（やる気や意欲）の他に社会性や協調性といっ

た広義の意味で用いている。臨床実習における評価項目においても「知識」「技術」「情意」の3つの項目として評価することとしている。

そのような広義の意味であれば大変重要なことだと思う。人と人とのかかわりが重要な職業であるので「情意面」の向上がはかれるような指導や学生のフォローをお願いしたい。

授業評価はどのように活用しているのか。

現在は、年2回授業評価を行ない各教員が以後の授業を行なう上での参考として活用している。また、教員同士の授業をそれぞれ見学するなどして授業の質の向上を図る機会を設けている。

これからも授業評価等を積極的に活用し質の高い授業を展開してもらいたい。

卒後教育について、どのような形で行っているのか伺いたい。学会発表等を行ないたいが、どう進めればよいのかわからないという話を良く聞くので可能な限りサポートしてあげてほしい。

これまでも卒業生が県の学会等で発表する際に様々な形で支援を行なってきたが、これからもそのような形でサポートしたいと考えている。来月の学会でも多くの卒業生が発表する予定である。病院、施設の先生方と相談しながらサポートしていきたい。

## 学生支援

スクールカウンセラーによるカウンセリングを導入したとのことだがその効果は表れているか。

実際にどれくらい効果があったかはこれから検証する必要があると考えているが悩みを抱える学生にとって有効であったと考えている。悩みを抱え解決できずにいる学生の助けになればと考えている。

大学では、スクールカウンセリングをどのように活用されているのか。

大学でも、スクールカウンセラーを常時配置している。かなりの数の学生がカウンセリングを受けている。また、教職員向けにスクールカウンセラーを講師とした研修会、講習会等を開催し、学生指導に活用している。御校でもそのような取り組みを行なうことで学生指導に役立てることができるのではないか。

今後、FDやSDの一環として実施していきたいと思う。

退学者や留年する学生対策として保護者との連携を増やしてはどうか。学内での授業、生活だけではわからない部分で問題を抱えている場合、早期解決につながることもあるのではないかと。

授業参観等の実施や3者面談を行うなどこれまでも行なってきたが、それ以外の方法も検討していきたい。

学校生活や授業の進捗における担任の果たす役割は、かなり大きいと思う。大学でも、担任制を取り入れ、学校生活や学習に関すること、キャリアや就職などの相談を受け対応している。

開校以来、担任制を取り入れ学生指導に取り組んできた。今後も、教員の資質向上をはかりながら学生の指導にあたっていきたいと考えている。

## 学生募集

学生募集については、他の大学や専門学校も様々工夫を凝らして実施しているが、どのようにおこなっているのか、模擬授業なども行なっているのか。

オープンキャンパス等の他に進路指導の先生方をお招きして授業参観や学校説明会などを実施している。毎年、40名前後の先生方に出席していただき本校への理解を深めていただき進路指導に役立てて頂いている。

模擬授業については、依頼があれば高校に訪問して実施したり、本校に訪問して実際の授業に参加してもらったりする機会を設けている。また、近年は専修学校協会が主催している中学校出前講座にも積極的に参加し、中学生への理学療法士作業療法士についての理解を深めるきっかけづくりを行なっている。

少子化で他の大学、専門学校も工夫を凝らした募集活動を展開している。御校でも引き続き様々な活動を行ない一人でも多くの受験者を得られるよう努力してもらいたい。

以上で、16:30 学校関係者評価委員会を終了した。

本日、委員の皆様からいただいた意見、要望等については、運営委員会等で検討し今後の学校運営や教育に役立てていくことといたします。